

第1回道の駅整備検討委員会 議事概要

場 所:安中市役所本庁舎 305 会議室

日 時:令和5年11月6日(月)14時~16時

【出席者】

(委員) 別紙名簿のとおり

(市) 岩井市長、齋藤課長、吉田課長補佐、白石主査及び荻原主事

(委託業者) 株式会社アイ・ディー・エー

【開会】

(市長)昨年4月の選挙での公約の一つが観光振興強化であり、観光と防災に寄与する市内初の道の駅に取り組んでいる。委員やオブザーバー皆様の提案や助言、協力をいただき、鉄道駅に隣接したオンリーワンの道の駅を目指していきたい。

【内 容】

<協議事項>

(1)安中市道の駅のこれまでの経緯について

(事務局)本市はかねてより道の駅の整備について期待や要望があった。道の駅の整備について検討協議した結果、群馬県と長野県を結ぶ碓氷峠の麓元に位置し、2県間を結ぶ交通の要衝である松井田町横川駅周辺を候補地として検討を進めている。

(2) 安中市における道の駅の位置付けと役割について

(IDA)資料による説明

(3) 基本構想検討基礎資料について

(IDA)資料による説明

(委員)道の駅と横川サービスエリアを繋ぐためのスマートインターチェンジの整備計画を今から検討してはどうか。

非常に道の駅と横川サービスエリアが近く、後から作ることができない環境であることは間違いがないと思う。このエリアを面として考えると、他の既にあるインフラなどと掛け合わせるのが重要だと思うので、広い視野を持ちながら検討してほしい。

(4) 安中市道の駅の基本理念の検討について

(IDA)資料による説明

(委員)地域の特産品を販売するという話もされているが、お願いしたいのは、ワークショップをやって地域の方々からの協力が得られるように進めてほしい。

- (委員)めがね橋付近の溪流などの隠れた名所を活かして、長時間滞在を促すことができる観光誘客を取り入れてほしい。
- (委員)非常に重要なテーマであり、隠れた資源を活かし、滞在時間を延ばせる取り組みを一つ一つ積み重ねながら進めていただきたい。
- (委員)計画箇所は、バスや鉄道が使える、その周りにアプトの道など歩けるルートが確保できていてポテンシャルが高い。今後、道の駅の建物を活かして人を誘導したり、トレッキングなどで歩かせるルートを設定し、それらの物語を作っていければ、もっと新しいコンテンツになると思う。
- (委員)観光動向では、この地を訪れるのは40、50、60代が多いため、「大人の道の駅」として、これらの世代をターゲットにしても良いと思う。
- (委員)ターゲットの中では地域住民がより重要と思う。道の駅の課題は平日と休日の平準化で、観光客は土日に来てくれるが平日は来にくい。さらに、安中まではまだインバウンドが到達していない。
道の駅を持続的に運営していくためには、地域住民がしっかり固定客になることが重要と思う。売上の的にも重要な存在であるところは強調したい。
- (委員)ワークショップ等を通して得た情報を加えながら、この委員会で議論できると思う。
- (委員)インバウンドが来たとしても場所も時期も限定的。まずは、地域住民の方々がとても大切であることを認識することが必要。地域住民はずっとそこにいるので、その方々が価値を感じない施設などは難しいと思う。
- (委員)横川では高齢化が進み、道の駅がいつできるのかという声が聞こえている。地域住民は道の駅に期待している。
- (委員)災害の時の車の確保について、何台駐車可能か。
- (IDA)小型自動車180台、大型車が10台は可能である。
- (委員)新しくできた国道17号沿いの前橋市の道の駅のように、もう少し場所が広くとれたら良いと思う。また、そこには鮮魚店が入っているが、安中市の人たちは魚好きが多いと思うし、魅力の一つになるのではないかと。野菜はなかなか揃わないと思うので、違った方向性も重要と思う。
- (委員)動物好きの家族連れなどが、楽しめるドッグラン施設等があっても良いと思う。
- (委員)駅側が高いなど若干高低差があり、うまく地形をデザインにしないと有効な活用ができないと思う。現在も土日には駐車場が埋まり、道の駅ができれば周辺道路の混雑が見込まれるが、この対応も計画しておく必要がある。
また、地域住民の方々が、毎日買物できるなど、日常的に利用できる機能も大事な視点と思っている。
- (委員)外出する際に、SNSからの情報を得ることがとても多くなっている。気軽に寄れてSNS映えする道の駅にしたいと思う。
ここでしか買えないものや食べられないもの、そういったものを何か一つポイントができればいいと考えている。
駐車場の問題では、道の駅を目的として来る人もいると考えると、もっと広くしても良

いのではないかと思う。

(委員)道の駅では、農産物を販売することになると思うが、安中市の農産物は限られた品物しかないと考えている。参考だが、地元以外の品を販売する方法としては、例えば、ららん藤岡では「市場仕入れ」という形をとっているらしい。

(委員)道の駅の直売場では、種類が足りないとか季節によって品が揃わないことなどの課題があり、その対応としては、「市場仕入れ」や他の道の駅と連携する方法などをとっている。

(市長)やはり、情報発信が非常に大事だと思うので、内外に示せるようにしたい。

それと、足りない農産物もあるが、今、商品開発を進めており、数年以内には全国に誇れる商品開発ができる予定である。それらを道の駅に置く形で前に進めていきたいと考えている。

また、ワークショップなどを開催しながら、丁寧に進めていく必要があると感じている。

(5) 今後のスケジュールについて

(事務局)今後のスケジュールについては、第2回委員会を1月中旬に開催し、基本構想案について検討いただく。その後、パブリックコメントを行い、第3回委員会を2月中旬に開催し、2月中には策定したいと考えている。

地域の方々とのワークショップを併せて実施したい。

(委員長)ワークショップやパブリックコメントを早い段階で実施した上で、第2回委員会を実施した方が、むしろ議論が進むと思うが。

(事務局)市全域を対象とするパブリックコメントはある程度案がまとまってから方が良いと思う。早期に地域の方々とのワークショップを実施する方向で調整する。